

保健体育科教育法D		講義	非常勤講師 新井 淑弘
科目カテゴリー	スポーツトレーナーコース、スポーツマネジメントコースの教職科目 柔道整復師コースの教職科目 救急救命士コースの教職科目	科目ナンバリング	11531304 12531304 13531304

1. 授業のねらい・概要

保健体育科教育学の基礎理論について学び、学習指導案の作成から授業研究、授業改善までの一連の流れを経験し、より良い授業づくりに必要な考え方と技術について学習を行う。より効率の良い保健学習を進めていく上で必要な知識や技術を身につけるとともに、実際の指導に必要な学習指導案の書き方、指導方法の工夫などについて学ぶ。

2. 授業の進め方

主に講義形式で授業を進める。保健学習を進めていく上で必要な知識や技術について学習を行った後に、学習指導案の作成を行う。

3. 授業計画

1. 保健体育科教育の基礎理論について	9. 模擬授業および授業研究会の実施①（一斉授業形式）
2. 中学校保健学習年間計画	10. 模擬授業および授業研究会の実施②（課題学習形式）
3. 高等学校保健学習年間計画	11. 模擬授業および授業研究会の実施③（実験・実習形式）
4. 保健指導年間計画について	12. 総合的な学習における保健的内容の取扱いとその事例について
5. 事例①（一斉授業形式の事例）	13. 授業評価方法とそれに対する改善方法について
6. 事例②（課題学習形式の事例）	14. 授業評価とそれに基づく授業改善の具体例について
7. 事例③（実験・実習形式の事例）	15. まとめ
8. 学習指導案の作成と模擬授業実施、授業記録のとり方および授業研究の実施について	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

毎回の授業について復習を行いながら、ノートを整理しておくこと。（2時間程度を必要とする内容）

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

試験実施後もしくはミニレポート提出後に、解答のポイント、出題意図等についての説明を行う。

6. 授業における学修の到達目標

保健学習および保健指導の計画から実施までの流れを理解し、授業づくりを行う。さらに、授業実施から授業評価、授業改善の方法について検討を行い、各自で作成した指導案の修正を行い授業改善についての理解を深め、知識や技術を身につけることを目標とする。

7. 成績評価の方法・基準

授業への貢献度・積極性などの平常点：20％、学習指導案の作成：30％、模擬授業実施および指導案改善状況：20％、試験もしくはレポート：30％

8. テキスト・参考文献

中学校・高等学校 保健科教育法 森 良一 編著 東洋館出版社
文部科学省学習指導要領解説（保健体育編）
中学校保健体育の教科書

9. 受講上の留意事項

学習指導案の作成を行うので、ワープロや表計算ソフト（ワード、エクセルなど）を使えるように練習しておくこと。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無
該当しない。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連
上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。